

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

見能林小学校
「学力向上実行プラン」

児童の主体的な学びを展開させるため、ICTを効果的に活用した学習指導の工夫

学力向上推進員 委員 校長:岩川計成 教頭:清田朝美 教務:古川圭三 1学年主任:井上智子
2学年主任:宇野貴美恵 3学年主任:山田孝 4学年主任・研修主任:田上晶代
吉岡 万里 5学年主任:森岡沙緒里 6学年主任:横手里佳
特別支援コーディネーター:福長裕江

校長

岩川 計成 印

【小中連携における共通の取組】
(1)知識・技能の習得

児童・生徒の主体的な学びを展開するため、ICTを積極的に活用した授業を実践し、互いに参考となる実践を共有する。

【各校の取組状況の把握について】

・学力向上に関する校内研修やアンケートの実施
・学年団による話し合い後、文書報告

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組むことができる。 ●既習の知識・技能を活用する力が十分でない。 ●読書量に差があり、語彙力が十分でない。	・学習準備を整え集中して学習に取り組むことができる。 ・漢字や計算など基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につける。 ・既習の知識・技能を、学習や生活と関連付けて活用できる。 ・読書や新聞を活用し、語彙力を高め正しい言葉で文章を書くことができる。	・曜日を設定し朝の活動で、継続的に漢字・視写・音読・計算など基礎的・基本的な内容の習得を図る。 ・読書の楽しさを児童に体感させ、進んで読書に取り組めるよう読書活動を行う。 ・ICTの活用について研修を行い、積極的(毎日)に授業等で活用し、児童に慣れさせる。	・漢字や計算など反復練習のみでなく、タブレットの活用やタイムを計るなど、やる気の出る工夫が必要である。 ・読み聞かせ、読書、電子図書の活用など、読書に親しめる方法を考えていく。	・タブレットを活用することによって、基礎基本の定着とともに、意欲が出てきた。 ・読書の時間を確保するとともに、学年で工夫した取り組みを行い、少しずつ読書量の増加がみられる。 ・研修や情報交換を行い、教員の技能向上が見られた。	・タブレットの活用には一定の成果がみられたので、新聞やワークシートの活用、読書への働きかけが課題である。 ・基礎基本を踏まえ、日常で活用できる力の育成が課題である。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットの活用で思考の共有が効果的に行え、考えを深めることができるようになってきた。 ●話し合い活動などで意見を聞き、考えを深めたり相手に伝えたりする力が十分でない。 ●場面や状況にあった語彙を選び、活用することが十分でない。	・自分の考えを整理して、順序だてて話すことができる。 ・考えや思いを適切に文章に表すことができる。 ・相手の話をしっかり聞き、自分の意見をはっきり伝えることができる。 ・語彙を増やし、豊かな表現力をつける。	・一日一回程度、思考につながる主発問を吟味し、思考の時間を十分に確保するとともに互いの考えを話し合う時間をとる。 ・一日一回は、児童がICTを活用する授業を行い、考えたり意見を交流したりする時間をとる。 ・新聞や教科書の言葉の広場等を活用し、語彙を豊かにする。	・テーマ日記などで、意図的に語彙の獲得や思考力の向上につなげる。 ・ペアやグループ学習の機会が思考力の育成に効果的である。 ・意見交換にタブレットが有効である。今後もいろいろな教科で活用していく。	・ペアやグループ学習により、思考の深まりがみられた。 ・タブレットの活用により、意見の共有を行い、思考に深まりがみられた。 ・テーマ日記や新聞の活用、書く活動の工夫により、表現力が高まったが、語彙力の育成にまでは至っていない。	・自分の考えを伝える力が十分でない。(文章力、表現力、語彙力) ・タブレットだけでなくノートやホワイトボードなど、場に合った活用をしていく必要がある。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習のルールを守ろうと努力し、落ち着いて取り組んでいる。 ○ICTの活用により、学習意欲が高まってきた。 ●指示されたことはできるが、自ら課題を見つけ、解決していこうとする力が弱い。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや分かる喜びを感じることができる。 ・ICTを意欲的に活用し、探究的に学習に取り組むことができる。	・直接体験やICT等を積極的に活用し、児童が活躍できる場を多くつくる。 ・授業の振り返りを自分の言葉でノートやタブレット等に記し、次時の学習に生かす。 ・ICTの活用について、教職員自身が研修を深め意識改革を図る。	・校内研修による情報交換などから発達段階に応じてICTの活用ができているので、さらに活用の仕方を工夫していく。 ・意見交換はもちろん、学習の振り返りにマイルインドを活用することによって評価の蓄積ができる。	・ICTの活用や直接体験により、学習に取り組む意欲や自主性が高まってきた。 ・ICTの活用により、相互評価や振り返りを生かすことができつつあるがまだ十分ではない。 ・研修により、教員の意識や技能が向上した。	・振り返り時によるICTやノートの活用のバランスを考えていく必要がある。 ・ICTを授業の中でいかに有効に活用するかなど、研修が大切である。 ・家庭力や地域力を生かした魅力ある教育課程の構成が大切である。

令和4年度 学力向上ロードマップ

